



「大学院工学研究科年報2021年度版」刊行に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 綿野, 哲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017737

「大学院工学研究科年報2021年版」刊行に寄せて

工学研究科長 綿野 哲

2021年度は、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言、さらにそれに続くまん延防止等重点措置がとられ、その後は、3密を避け、手洗いをする、マスクをする、などを基本とした「新しい生活様式」を実践しながら教育・研究活動を実施して参りました。コロナ以前と比べると、教育・研究に割ける時間は減っておりますが、ようやく新しい生活様式にも慣れ、効率良く教育・研究を実践する手法を修得してきたように思います。その結果、従来に比べても遜色のない素晴らしい研究成果を挙げることができました。その成果をまとめた「大学院工学研究科年報2021年版」を刊行できることはこの上ない喜びであります。

大阪府立大学大学院工学研究科では、自己点検・評価および社会貢献の一環として、平成2年の創刊以来、毎年、研究成果を年報として取り纏め、公表して参りました。本年報は、令和3年4月から令和4年3月までの1年間に工学研究科の教員や学生による研究活動の成果を取り纏めたものです。具体的には、教授78名、准教授78名、講師10名、助教27名の合計193名（令和4年3月末現在）の教員、大学院生（博士前期課程、後期課程）および学部4回生（卒業研究受講生）らによって発表された著書、論文、国際会議録、解説・総説、国際会議や国内会議での講演、新聞・雑誌記事等への掲載を網羅的に掲載するとともに、外部資金の獲得状況、学位論文題目、学協会から表彰を受けた被顕彰者名、海外からの来訪者等を巻末に載せております。

大学院工学研究科は、6専攻10分野から構成され、幅広い分野で横断的な最先端の研究を展開しています。また、充実した多様な教育プログラムと最先端の研究を通して高度な研究開発能力を身に付けた、豊かな人間性と高い倫理観を持ち合わせた優秀な人材を育成しています。その集大成ともいえる本年報をご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見・ご評価を仰ぐとともに、ご活用頂けるテーマがあればお気軽にお声がけ頂ければ幸いです。本年報が、工学研究科構成員の研究活動に一層の発展をもたらし、産業界においても新しい研究開発の契機となることを祈念して、刊行に寄せる言葉とさせていただきます。

2022年6月

